

(1) 小球 P の初速度の x 成分, y 成分はそれぞれ, $v_0 \cos \theta$, $v_0 \sin \theta$ である。
時刻 t における小球 P の座標を, (x_P, y_P) と定義する。

放物運動では x 軸方向の運動は等速直線運動になるので, $x_P = v_0 t \cos \theta$
 y 軸方向の運動は鉛直投げ上げと同じ運動になるので, $y_P = v_0 t \sin \theta - \frac{1}{2} g t^2$

(2) 小球 Q は自由落下運動である。時刻 t における小球 Q の座標を, (x_Q, y_Q) と定義する。

x 軸方向の速度は 0 なので, $x_Q = a$
 y 軸方向は初速度 0 の等加速度運動になるので, $y_Q = b - \frac{1}{2} g t^2$

衝突するための条件は, $x_P = x_Q$, $y_P = y_Q$ なので,

$$v_0 t \cos \theta = a \quad \cdots \textcircled{1},$$

$$v_0 t \sin \theta - \frac{1}{2} g t^2 = b - \frac{1}{2} g t^2 \quad \text{となり} \quad v_0 t \sin \theta = b \quad \cdots \textcircled{2}, \quad \textcircled{2}/\textcircled{1} \text{より}, \quad \tan \theta = \frac{b}{a}$$

(3) 小球 Q は, 斜面に沿う下向きに等加速度直線運動をする。この時の加速度は $g \sin \alpha$ となる。

斜面上の原点 O から小球 Q までの距離を l と定義する。

初速度 0 の等加速度直線運動なので, $l = \frac{1}{2} g t^2 \sin \alpha$

時刻 t における小球 Q の座標を, (x_{Q2}, y_{Q2}) と定義する。 x_{Q2} , y_{Q2} を l で表すと,

$$x_{Q2} = l \cos \alpha = \frac{1}{2} g t^2 \sin \alpha \cos \alpha$$

$$y_{Q2} = -l \sin \alpha = -\frac{1}{2} g t^2 \sin^2 \alpha$$

(4) 衝突するための条件は, $x_P = x_{Q2}$, $y_P = y_{Q2}$ なので,

$$v_0 t \cos \theta = \frac{1}{2} g t^2 \sin \alpha \cos \alpha \quad \cdots \textcircled{3},$$

$$v_0 t \sin \theta - \frac{1}{2} g t^2 = -\frac{1}{2} g t^2 \sin^2 \alpha \quad \text{となり} \quad v_0 t \sin \theta = \frac{1}{2} g t^2 \cos^2 \alpha \quad \cdots \textcircled{4}, \quad \textcircled{4}/\textcircled{3} \text{より},$$

$$\tan \theta = \frac{\frac{1}{2} g t^2 \cos^2 \alpha}{\frac{1}{2} g t^2 \sin \alpha \cos \alpha} = \frac{\cos \alpha}{\sin \alpha} = \frac{1}{\tan \alpha}$$

2

解答例

1. $\frac{mg}{k_1+k_2} \sin\alpha$

2. $k_1 + k_2$

3. $\sqrt{\frac{k_1+k_2}{m}}$

4. $2\pi \sqrt{\frac{m}{k_1+k_2}}$

5. $g \sin\alpha \sqrt{\frac{m}{k_1+k_2}}$

6. $\frac{mg}{k_1} \sin\alpha$

7. $\frac{k_1+k_2}{k_1k_2} mg \sin\alpha$

8. $\frac{k_1k_2}{k_1+k_2}$

9. $2\pi \sqrt{\frac{m(k_1+k_2)}{k_1k_2}}$

10. $g \sin\alpha \sqrt{\frac{m(k_1+k_2)}{k_1k_2}}$

3

解答例

(ア) 静電気力

(イ) 斥力

(ウ) 引力

(エ) クーロン

(オ) $F = k \frac{Q_1 Q_2}{r^2}$

(カ) x 軸の正

(1) 4.7×10^4

(2) 2.8×10^5

(3) 5.0×10^5

(4) 2.2

4

解答例

(1) 単原子分子理想気体の物質量を n [mol] とすると、理想気体の状態方程式より、

$$n = \frac{1.0 \times 10^5 \times 7.0}{8.3 \times 300} = \frac{7.0}{0.83 \times 3} \times 10^2 = 2.81 \dots \times 10^2 \cong 2.8 \times 10^2 \text{ [mol]}$$

(2) 容器 L 内の圧力を P_L とすると、ボイルの法則より、

$$P_L = \frac{7.0}{0.050} \times 1.0 \times 10^5 = 1.4 \times 10^7 \text{ [Pa]}$$

(3) 状態 2 のときの容器 L 内と容器 R 内の物質量をそれぞれ n_L , n_R とする。一方、状態 2 では容器 L 内と容器 R 内の圧力は等しい。それを P とすると、次の状態方程式が成り立つ。

$$P \times 0.050 = n_L \times 8.3 \times 300$$

$$P \times 0.050 = n_R \times 8.3 \times 3$$

これらを連立すると、 $n_L \times 8.3 \times 300 = n_R \times 8.3 \times 3$ より、 $100n_L = n_R$ を得る。よって、容器 L 内の気体の物質量は、容器 R 内の気体の物質量の 1.0×10^{-2} 倍である。

(4) まず n_L を求める。(3) より、 $n = n_L + n_R = n_L + 100n_L = 101n_L$

$$\therefore n_L = \frac{1}{101} n = \frac{1}{101} \times 2.81 \times 10^2 = 2.78 \dots \cong 2.8 \text{ [mol]}$$

状態方程式より、状態 2 での容器 L 内の圧力は、

$$\therefore P = \frac{2.78 \times 8.3 \times 300}{0.05} = \frac{2.78 \times 0.83 \times 3.0}{5} \times 10^5 = 1.38 \dots \times 10^5 \cong 1.4 \times 10^5 \text{ [Pa]}$$

(5) 一般に、温度 T で物質量 n の単原子分子理想気体の内部エネルギー U は、 $U = 3nRT/2$ で与えられる。ここで、 R は気体定数である。よって、状態 1 のときの気体の内部エネルギー U_1 は、

$$U_1 = \frac{3}{2} \times n \times R \times 300$$

一方、状態 2 のときの内部エネルギー U_2 は、

$$U_2 = \frac{3}{2} \times n_L \times R \times 300 + \frac{3}{2} \times n_R \times R \times 3$$

$$\begin{aligned} \therefore \frac{U_2}{U_1} &= \frac{\frac{3}{2} \times R \times (300n_L + 3n_R)}{\frac{3}{2} \times n \times R \times 300} = \frac{3(100n_L + n_R)}{300n} = \frac{3\left(\frac{100}{101}n + \frac{100}{101}n\right)}{300n} = \frac{2}{101} \\ &= 0.0198 \dots \cong 2.0 \times 10^{-2} \text{ 倍} \end{aligned}$$